

大形タイル部分接着剤張り工法施工説明書

(300mm 角を超え 1200×600 mm以下)

屋外壁

屋内壁

Vol. 05

ニッタイ工業株式会社

2024年5月10日改訂

INDEX

はじめに

1. 総則

- 1-1 適用範囲
- 1-2 施工条件
- 1-3 施工上の留意事項

2. 材料

- 2-1 セラミックタイル
- 2-2 施工材料
 - (1) 有機系接着剤
 - (2) 専用L型金具
 - (3) 下地調整材
 - (4) 目地材
 - (5) L型金具取付、剥落防止処理材料

3. 適用下地

4. タイル張り施工方法

- 4-1 下地の確認・調整
- 4-2 タイルの割り付け・墨出し
- 4-3 専用L型金具留め付け
- 4-4 接着剤塗布～タイル張り付け
- 4-5 プロセス検査
- 4-6 目地直し（目地詰め）
- 4-7 伸縮調整目地
- 4-8 タイル面清掃・周囲清掃

5. 剥落防止処理

はじめに

本マニュアルは、有機系接着剤を用いて大形セラミックタイルを施工する場合に適応する部分接着剤張り工法施工説明書です。このたび、日本建築仕上学会・大形タイル部分接着剤張り工法標準化委員会による「大形タイル部分接着剤張り工法の施工標準（案）」が公開（2023年12月）となり、本施工説明書も同施工標準（案）に沿った形に改訂いたしました。

また施工材料は当社専用商品以外に、専用分野で発売されている商品を推奨材料として掲載しております。

1. 総則

1-1 適用範囲

タイルサイズ

300mm 角を超え 1,200×600mm 以下

1-2 施工条件

用途	屋外壁、屋内壁	
施工高さ	3m超	タイルのズレ防止のため専用L型金具を使用し、かつタイルへの剥落防止処理を行う ※押出成形セメント板は施工高さ13mまで
	3m未満	タイルのズレ防止のため専用L型金具を使用する
タイルの目地幅	3mm以上 10mm以下	
目地材の選択	(屋外壁) 変成シリコーン系シーリング材 (屋内壁) 変成シリコーン系シーリング材またはセメント系目地材 ただし目地詰めなし(空目地)も可能とする	

下地条件

RC造：コンクリート下地、モルタル下地

鉄骨造：押出成形セメント板下地

ボード下地（内装壁）：合板、けい酸カルシウム板、石こうボード、スレートボード

1-3 施工上の留意事項

(1) 施工前の注意点

- ・タイル工事業者は、監理者（元請）から提示があった施工計画書に基づいて施工要領書を作成し、提出してからタイル施工を始めてください。
- ・タイルは、雨露が当たらない場所に保管してください。
- ・セメント系下地調整用材料は、雨露や直射日光が当たらない場所に保管してください。
- ・有機系接着剤は、雨露や直射日光が当たらない風通しの良い5～35℃の場所で、密閉した状態で保管してください。

(2) 施工環境条件留意事項

- ・降雨時、降雪時および強風時など施工に支障のある場合、又はこれが予想される場合は施工を行わないようにしてください。
- ・気温が5℃以下および5℃以下になると予想される場合は、施工を行わないようにしてください。

万一 5℃以下になった場合は、降雨、降雪対策のための養生を検討するとともに、加温して有機系接着剤の硬化を促すようにします。

2. 材料

2-1 セラミックタイル




「ニッタイ タイル・建材カタログ」に屋外壁用
屋内壁用で使用可能な表記がされている
セラミックタイル。



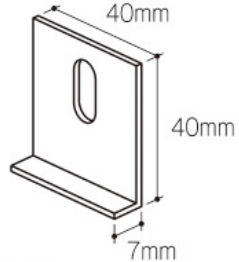
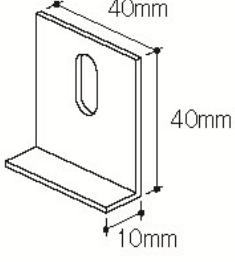
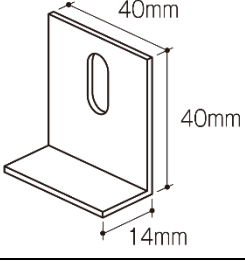
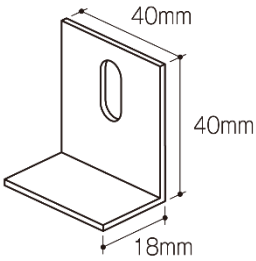
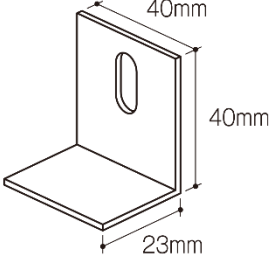
用途	タイルサイズ	厚さ
屋外壁 屋内壁	300 mm角を超え 1200×600 mm以下	8 mm以上 15 mm以下

2-2 施工材料

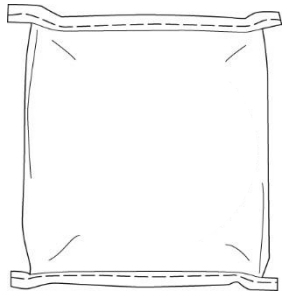
(1) 有機系接着剤（推奨品）

<p>〈セメダイン社製 内外装タイル用弾性接着剤〉 タイルエースF ビード塗布用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 500ml フィルムパック ・ 2kg フィルムパック <p>変成シリコーン系樹脂一液型反応硬化型</p>	
<p>〈セメダイン社製 内外装タイル用弾性接着剤〉 タイルエース石材用 ビード塗布用 点付け塗布用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 500ml フィルムパック ・ 2kg フィルムパック <p>変成シリコーン系樹脂一液型反応硬化型</p>	
<p>500ml 専用ガン クリーンパックガン CG（品番 XA-360） ※2kg 用のガンは用意がございません。 市場の中からお準備ください。</p>	

(2) 専用 L 型金具

<p>品番 : 0LK-7 (旧品番 : 0LK-2A) 材質 : SUS304 100 個/梱包 (別売)ステンレス製コンクリートねじ $\phi 4 \times 32$ mm 厚さ約 1 mm</p>	
<p>品番 : 0LK-10 (旧品番 : 0LK-1A) 材質 : SUS304 100 個/梱包 (別売)ステンレス製コンクリートねじ $\phi 4 \times 32$ mm 厚さ約 1 mm</p>	
<p>品番 : 0LK-14 材質 : SUS304 100 個/梱包 (別売)ステンレス製コンクリートねじ $\phi 4 \times 32$ mm 厚さ約 1 mm</p>	
<p>品番 : 0LK-18 材質 : SUS304 100 個/梱包 (別売)ステンレス製コンクリートねじ $\phi 4 \times 32$ mm 厚さ約 1 mm</p>	
<p>品番 : 0LK-23 材質 : SUS304 100 個/梱包 (別売)ステンレス製コンクリートねじ $\phi 4 \times 32$ mm 厚さ約 1 mm</p>	


(3) 下地調整材

<p>既成調合ポリマーセメントモルタル 〈モルタル下地調整用〉 JIS A 6916（建築用下地調整塗材）に規定する <u>セメント系下地調整塗材 2 種（CM-2）に適合した</u> 既成調合ポリマーセメントモルタル</p> <p>下地条件として、JASS15（左官工事）に規定された モルタル下地とし、目荒らしが施されたコンクリ ート面に施工されたモルタル下地であることが 条件</p>	
---	---



※有機系下地調整塗材は使用しないでください。

その他、当社ブランド以外の部材は市場の中からご準備ください。

(4) 目地材

<p>（屋外壁）（屋内壁） 変成シリコーン系シーリング材</p>	<ul style="list-style-type: none">・ JIS A 5758 に適合する製品をお使いください。 （例）セメダイン社製 POS シール 等・ 目地詰めの際には、タイル接着剤が十分に硬化していることを確認の上、使用してください。
<p>（屋内壁） セメント系目地材</p>	<p>特殊目地材 TM-0～5</p> <p>標準施工工法：一本目地、塗り目地 標準使用量：約 6～8 m²/袋 標準加水量：約 3.5～4L/袋</p>  <p>粗い粒子の砂を配合した目地材です。塗り目地だけでなく、チューブによる一本目地施工にも対応できるよう調合されています。</p> <p>袋記載の注意事項をお読みいただき、ご使用ください。</p> <p>他社の既調合セメント系目地材をお使いいただいても結構です。他社仕様書に従って施工してください。</p> <p>屋外壁には使用しないでください。</p>

(5) L型金具取付、剥落防止処理材料

L型金具、剥落防止用ステンレス線（板） 取り付けねじ	
コンクリートねじ（φ=4mm 長さ32mm） φ3.4mm程度の下穴が必要です。 頭部皿状 ステンレス製	鉄骨用ドリルねじ（φ4mm 長さ30mm） 頭部皿状 ステンレス製
	

3. 適用下地

【コンクリート、モルタル下地】 **ビード塗布** **点付け塗布**

現場打ち込みコンクリート下地またはモルタル下地が前提です。

下地精度は用いる接着剤の張り代以下におさまっていることを確認してください。

①コンクリート下地（タイル直張り用）

- 1) タイル工事に先立ち、あらかじめ設けてある基準墨からタイル張り下地、開口部、ひび割れ誘発目地、構造スリットの位置、形状等について施工図との整合性を確認してください。
- 2) コンクリート面は、ひび割れ・ジャンカ・過度の凹凸などがないように適切に補修されている状態とします。補修に用いる材料は、JIS A 6916（建築用下地調整塗材）に規定するセメント系下地調整塗材2種（CM-2）に適合した既成調合ポリマーセメントモルタルを使用してください。
- 3) コンクリート表面は、有機系接着剤との接着性を妨げる型枠剥離剤や埃、ごみ、白華等が除去された状態とします。
- 4) コンクリート面の精度は、長さ3mにつき7mm以内とします。不陸と段差の著しい箇所は、2-2(3)の下地調整材で不陸調整を行います。
接着剤の張り代で調整可能な厚さは、ビード塗布の場合7mm以下、点付け塗布の場合20mm以下です。
- 5) 開口部周辺等ポリマーセメント系塗膜防水が施される箇所にタイル張りを行う場合は、JIS A 6916（建築用下地調整塗材）に規定するセメント系下地調整塗材2種（CM-2）に適合した既成調合ポリマーセメントモルタルを一層施工してください。
- 6) 不陸調整（セメント系下地調整材）は、超高压水洗浄による目荒らしが施されたコンクリート面（開口部周辺はダイヤモンドカップ掛け可）とし、吸水調整材による吸水調整を行った後に行います。また、塗厚が極端に薄くなる箇所への不陸調整はお避けください。

②モルタル下地

- 1) モルタル下地の施工は、JASS15（左官工事）によります。モルタルの剥離防止の観点から、コンクリート躯体表面は、超高压水洗浄による目荒らしを施した後、全面にわたって作製した下地とします。
- 2) コンクリート躯体表面およびモルタル下地表面は、硬化不良・剥離・ひび割れなどがないように適切に補修されており、汚れ、レイタンスなどの接着上有害な付着物がない状態とします。
- 3) 下地面の仕上げは、金ごてによる平坦な表面仕上げとします。
- 4) 既調合モルタルの総塗り厚および1回の総塗り厚は、製造業者の仕様に従います。
- 5) モルタル下地の伸縮調整目地は、コンクリート躯体のひび割れ誘発目地および水平打継ぎ目地と一致するように設けます。
- 6) モルタル下地に伸縮調整目地を設ける位置は、横目地については各階の水平打継箇所で4m内外ごと、縦目地については柱形・開口部寸法に応じた構造上の要所とし、3m内外ごとに設けることを標準とします。
- 7) 開口部周辺等にポリマーセメント系塗膜防水が施されている箇所に下地を作製する場合は、JIS A 6916（建築用下地調整塗材）に規定するセメント系下地調整塗材2種（CM-2）に適合した既成調合ポリマーセメントモルタルを一層施工してください

③押出成形セメント板下地 **ビード塗布**

押出成形セメント板の下地取り付けおよび施工に関しては、「乾式接着剤張り工法施工説明書（押出成形セメント板下地）」および押出成形セメント板メーカーの施工要領書に従って取り付けてください。

【屋内壁への下地】

ボード下地の場合は下記をご使用ください。

推奨ボードの種類	タイル厚 15 mm以下	タイル厚 15 mm超
合板	厚さ 12 mm以上	厚さ 12 mm以上
けい酸カルシウム板	比重 1.0 厚さ 6 mm以上	比重 1.0 厚さ 6 mm以上
石こうボード	厚さ 9.5 mm以上	—
スレートボード	フレキシブル板 厚さ 6 mm以上 オートクレーブ養生品	フレキシブル板 厚さ 6 mm以上 オートクレーブ養生品

ボードの継ぎ目は突き付けとします。特にボード下地は、隣り合うボードに段差が生じ、不陸が周期的に起きないように注意してください。またそれぞれのボードは、その業界が発行する標準施工を順守して施工してください。

4. タイル張り施工方法

4-1 下地の確認・調整

- 1) タイル工事業者は、タイル張りの前に下地の表面状態の検査を行い、浮き、脆弱削、ひび割れなどの不具合がある場合は、監理者（元請）に報告し、適切に処置を行ってください。

- 2) タイル張りに先立ち、下地面の清掃を行います。
- 3) コンクリートおよびモルタル下地等の乾燥の程度を調べ、下地の含水が多い場合は下地を乾燥させてください。また、吸水調整材が塗布されていないことを確認してください。
- 4) ボード下地の場合は、規定以上の厚さの物を必ず選択してください。

4-2 タイルの割り付け・墨出し

- 1) 施工図と照合し基準墨から仕上げ墨出しを行い、各部位と伸縮調整目地や構造スリット等の取り合いについて寸法の確認を行います。不具合があれば、監理者（元請）に申し出て、適切な処置を行ってください。
- 2) 施工図におけるタイル割り付け図と仕上げ墨出しの結果から、目地割りを決定します。
- 3) 目地割りに従って目地割り定規を作成し、基準となるコーナー部にピアノ線または水系を引きとおします。

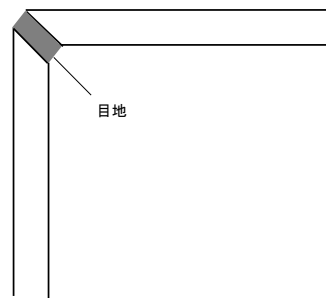
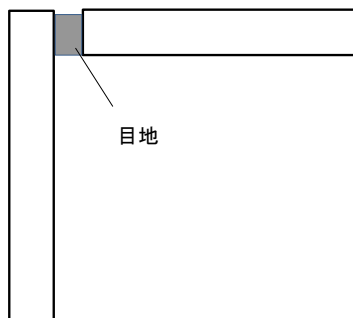
【出隅・入隅部の納まり】

出隅部

タイルによりそれぞれの納め方の特長があります。どちらを採用するかを決定してください。

(A) 平物納め

(B) 剣先加工品による平物納め

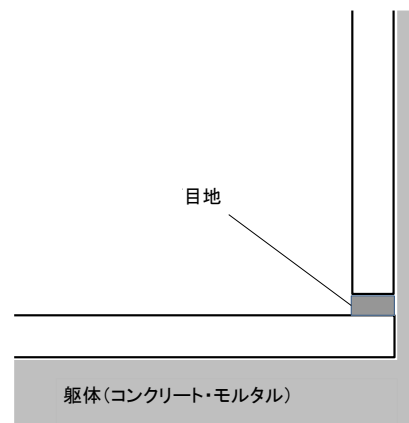


【注意事項】

- (A) 平物納めは、小端部の色とタイル表面の色の違いが大きい場合がありますので、ご注意ください。
- (B) 剣先加工品による平納めは、剣先部が欠けやすいので多少の面取りが発生します。

入隅部

入隅部は平物納めで目地を施します。

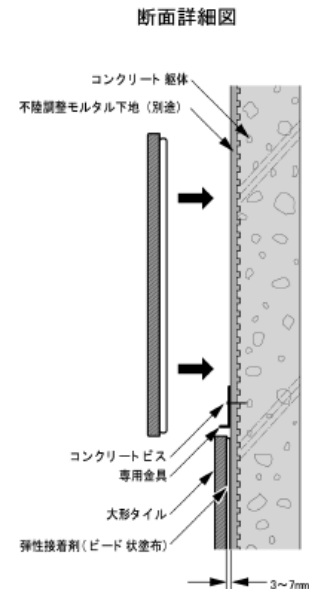


4-3 専用L型金具留め付け

タイル最下段に専用L型金具（定木、目地スペーサーも可）を固定します。

タイルは下から上に張り上げていきます。

まずL型金具取り付けのための下穴を開けます。タイル目地部で2枚のタイルが支えられる位置に穴を開けてください。下穴を開ける際は削りカスを適宜排出してください。下穴を開けた後、L型金具を取り付けます。L型金具にはタイルの荷重がかかりますので、タイルを施工した際にずれないように、コンクリートビスでしっかりと留めてください。



コンクリート直張り下地も同様です。

専用L型金具は高さ 1.5m以下ごとに設置してください。金具を設置しない段にはスペーサーなどを介して積み上げます。

表「タイルサイズごとの必要金具個数」(17・18 ページ) をご参照いただき、タイルのサイズおよび張り代によって適切な金具の品番・必要個数をご使用ください。

ボード下地の場合も同様に施工します。必ず鉄骨がある場所にL型金具を取り付けます。鉄骨のない位置での留め付けは、タイルの自重でボードが破壊することがありますので避けてください。

4-4 接着剤塗布～タイル張り付け

ビード状塗布（モルタル下地、ECP 下地、ボード下地）、(2) 点付け塗布（コンクリート下地、モルタル下地、ボード下地）のいずれかをお選びください。

(1) ビード状塗布 **モルタル下地** **押出成形セメント板下地** **ボード下地**

接着剤は、専用ガンを利用して 150mm 以下のピッチで鉛直方向に塗布します。

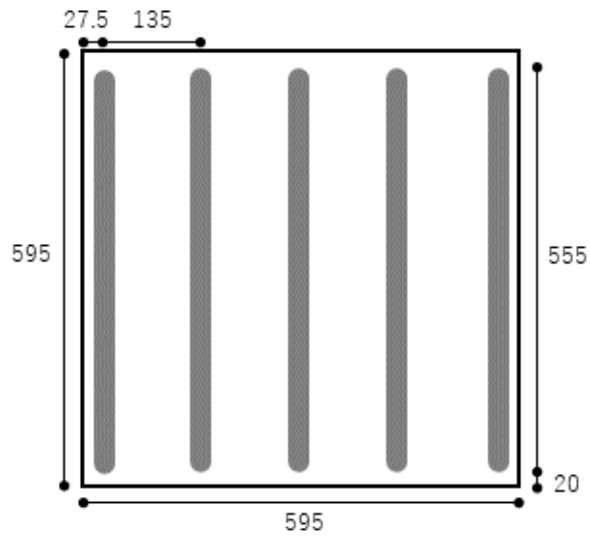
タイル端部から約 20mm ずつ控えて塗布してください。

ノズル口径は、目的の塗布幅・塗布厚になるよう、先端をカットして使用します。

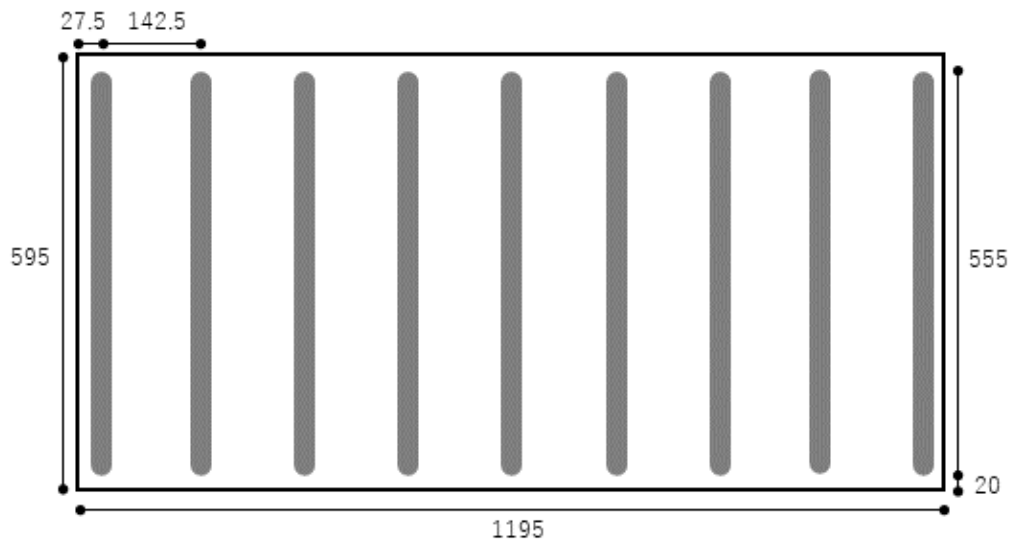
塗布幅・塗布厚はタイル張り付け後に接着剤の広がり幅が 20mm 程度になるよう設定します。下記表をご参考ください。

あらかじめ割り付けに沿って留め付けたL型金具の上に、接着剤を鉛直方向にビード状塗布したタイルを載せて圧着しながら張っていきます。接着剤が十分になじむよう、揉み込んで押さえつけてください。押さえつけが不十分な場合は、振動工具を用いて加振しながら張り付けてください。圧縮が不足すると接着剤の接着率が減少します。時々剥がして接着剤の付着状況を確認しながら張ってください。

〈600 mm角の接着剤塗布例〉（単位：mm）



〈1,200 × 600 mmの接着剤塗布例〉（単位：mm）



【広がり幅が 20mm 程度となる目安の塗布幅と塗布厚】

張り代 (mm)	塗布幅 (mm)	塗布厚 (mm)
3	9 以上	9 以上
5	11.5 以上	11.5 以上
7	13.5 以上	13.5 以上

【接着剤必要量の目安】

タイル寸法 (mm)	塗布本数の目安	張り代 (mm)	500ml フィルムパック 本数※ (本)
600×300	横張り 5 本	3	約 0.17
		5	約 0.27
		7	約 0.37
	縦張り 3 本	3	約 0.21
		5	約 0.35
		7	約 0.48
600mm 角	5 本	3	約 0.36
		5	約 0.58
		7	約 0.80
1200×600	9 本	3	約 0.64
		5	約 1.05
		7	約 1.44

※ロス分は含んでおりません。

(2) 点付け塗布 **コンクリート下地** **モルタル下地** **ボード下地**

接着剤は、専用ガンを利用してダンゴ状に盛り上げて塗布します。

偏りなく均等に塗布してください。塗布する点の間隔は 200mm 程度を目安とします。

タイル端部から約 20mm ずつ控えて塗布してください。

ダンゴ 1 点あたりの接着剤の大きさは、**圧縮時：直径 60mm 程度**となるように塗布してください。

塗布厚は張り代の 2 倍程度の高さが必要です。

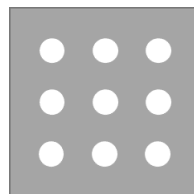
タイルの圧縮が不十分だと、接着強度に影響がありますので、接着剤が十分になじむよう、揉み込んで押さえつけてください。押さえつけが不十分な場合は、振動工具を用いて加振しながら張り付けてください。

【タイルサイズごとの接着剤塗布点数の目安】

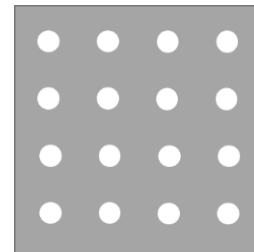
タイル寸法 (mm)	塗布点数
600×300	8点 (4×2)
400mm 角	9点 (3×3)
600mm 角	16点 (4×4)
800×400	15点 (5×3)
1200×600	32点 (8×4)



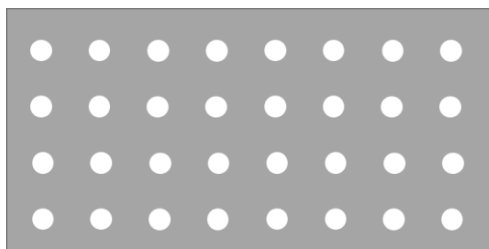
600×300 8点



400mm 角 9点



600mm 角 16点



1200×600 32点

【広がり直径が70mm程度となる目安の塗布直径と塗布厚】

張り代 (mm)	塗布直径 (mm)	塗布厚 (mm)	1点あたり重量	1㎡当たり接着剤重量 (本数※)
5	50	10	30g 以上	約 1.5kg (約 2本)
10	50	20	60g 以上	約 3kg (約 4本)
15	50	30	90g 以上	約 4.5kg (約 6本)
20	50	40	120g 以上	約 6kg (約 8本)

※500ml フィルムパックの本数 ロス分は含んでおりません。

4-5 プロセス検査

【タイル張り付け準備段階およびタイル張り付け開始前】

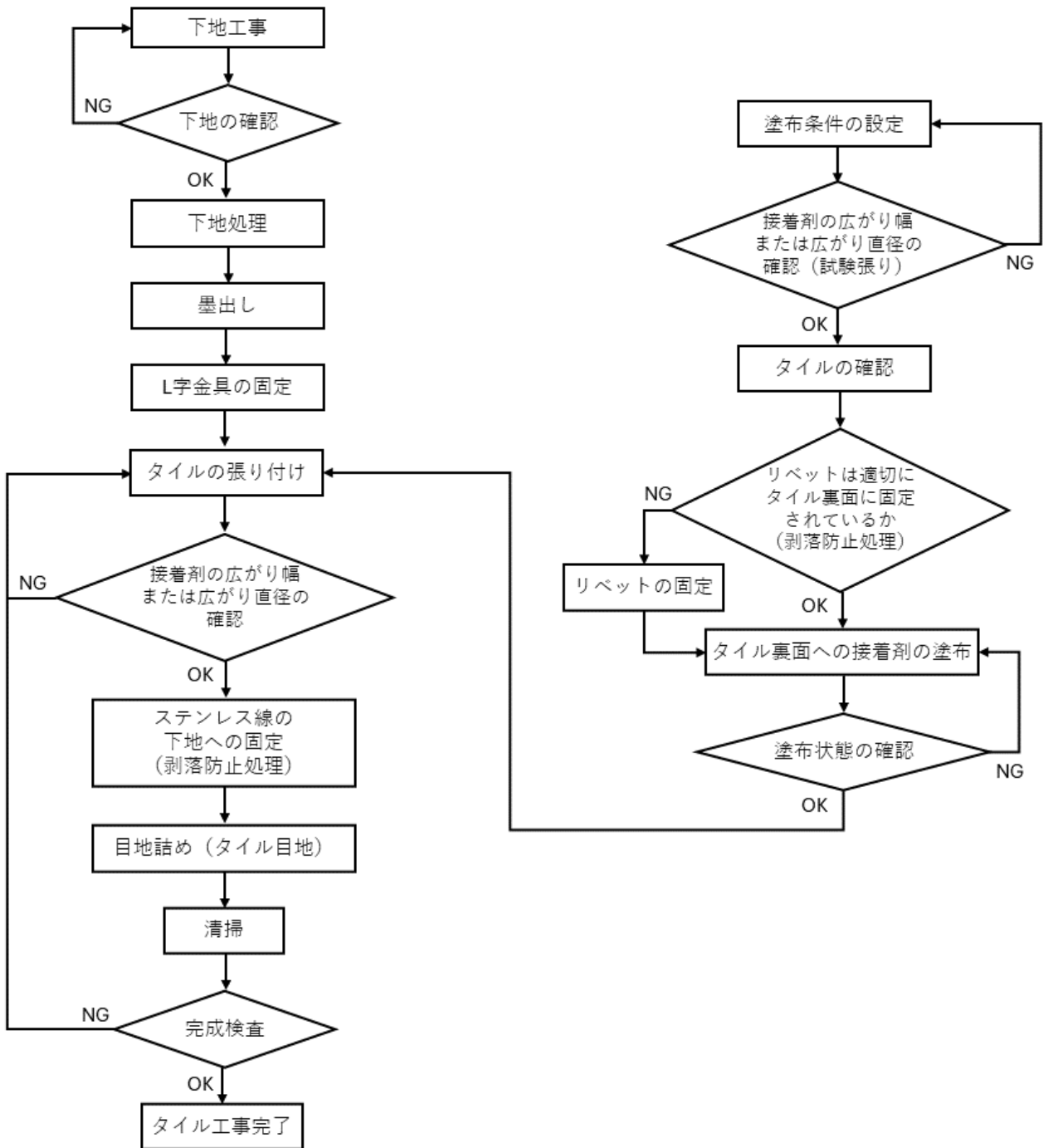
施工開始前には、本施工説明書に記載の条件（接着剤の塗布位置、塗布本数または点数、塗布長さや幅または直径、塗布厚、および塗布重量など）で試験張りを行い、計画通りに接着剤が押し潰され広がることを確認してください。

計画通りの広がり幅または広がり直径を満たさなかった場合は、接着剤の塗布条件を見直してください。

【タイル張り付け時】

張り付けたタイルを接着剤が硬化する前にはがして、接着剤の広がり幅または広がり直径が確保されていることを確認して記録してください。

部分接着剤張りのフロー



【共通注意事項（ビード塗布・点付け塗布）】

- ・ 大形タイルの壁面への施工に際しては、接着剤の張り代の厚さやタイルの反りの影響を受けやすくなります。仕上がりの面精度を保つために1/2 レンガ張りはお避けいただき、施工時にはタイル同士の面精度に十分ご配慮ください。また、ダウンライトなどの照明は上記の影響による不陸が目立つ場合がありますのでご注意ください。
- ・ 使用する有機系接着剤は、開封すると空気中の湿気と反応して硬化が進むため、直ちにタイルを張り合わせてください。張り付け可能時間は季節にもよりますが15～40分ほどとなりますので、注意して作業してください。
- ・ 伸縮目地部をまたがって、タイルを張らないようにしてください。

4-6 目地直し（目地詰め）

目地直しはタイル張り付け後、必要に応じて直ちに行ってください。

目地直しが可能な時間は、季節にもよりますが1時間以内とお考えください。

屋外壁施工の目地詰めは、変成シリコンシーリング材の挿入に限定します。セメント系目地材はご使用いただけません。

目地詰めなし（空目地）も可能です。

目地詰めを行う場合には、タイル接着剤が十分に硬化していることを確認の上、行ってください。

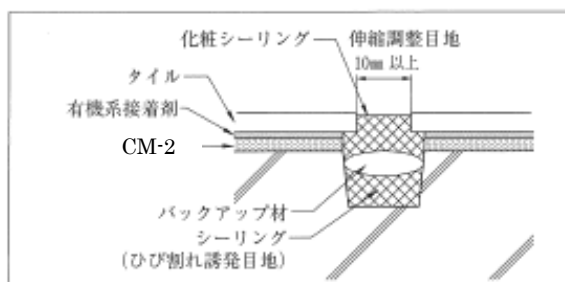
4-7 伸縮調整目地

タイル張り面には必ず伸縮調整目地を設けてください。

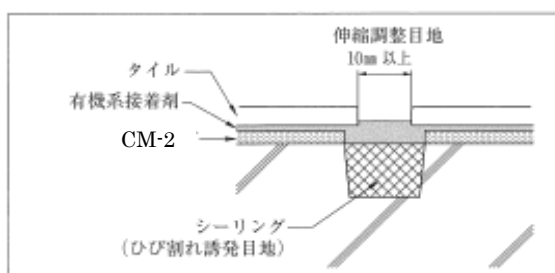
コンクリート躯体のひび割れ誘発目地、打継ぎ目地、構造スリットおよびモルタル下地の伸縮調整目地は同じ位置に設置されています。タイル面もそこではタイルを跨ぐことは避け、タイル張り面での伸縮調整目地としてください。

伸縮調整目地の幅は、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地などのノンワーキングジョイントでは10mm以上が標準とされています。タイル面においてもこの部分には、10mm以上の化粧シーリングを施してください。

【下地からの伸縮調整目地の納まり】



【化粧シーリングなしの場合】



4-8 タイル面清掃・周囲清掃

施工によるタイルの割れ、欠け、汚れなどの欠点の有無について検査してください。タイル表面に接着剤が付着した場合は、スクレーパー、カッターナイフ等を使用しタイルを傷付けないように接着剤表面を削り取り、残りを砂消しゴム等で削り取り去ります。

施工による不陸や、段差の程度及び出入隅の通りについて検査してください。

張り上げ接着硬化後のタイル自体に異常がある場合は、そのタイルを細かく砕いて取り除きます。

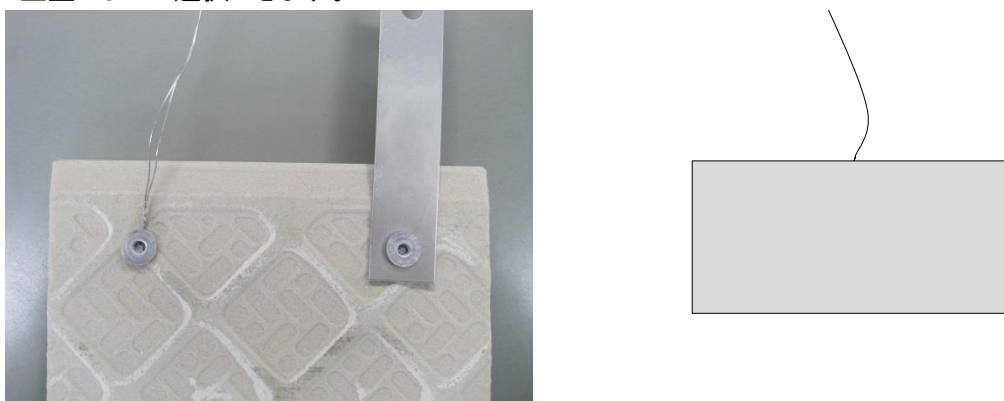
下地の窯業系サイディングに影響しないように加減して進めます。
接着剤をきれいにカッターナイフ等で除去した後、新たなタイルを接着します。

5. 剥落防止処理

施工高さ 3mを超えてタイルを張る場合には、剥落防止のための安全対策を実施してください。
屋外壁、屋内壁、共に必要です。

【ニツタイ・リベット工法】

ステンレス線または金具留め方法の優位性は、現場状況によって異なりますのでご考慮ください。一般には、ステンレス線を使った方法は、コンクリート締結用ねじの位置の確保に柔軟性があります。尚ステンレス線の径は、タイル重量によって選択できます。



写真左:ステンレス線、写真右:金具でのリベット加工状態

【リベット工法の種類】

ステンレス線取り付け (標準はφ0.6mm)	下地の不陸が大きい場合や、木造等、括り付け場所が限定される場合に向きます。
ステンレス板取り付け (75×15×0.4mm)	下地の不陸が比較的軽微な場合に使用可能で、取り付け場所が限定されます。

リベット加工は弊社でお受けします。営業担当者と事前のお打合せをお願いいたします。

タイルサイズごとの必要金具個数（横張り）

タイルサイズ (mm)	張り代 (mm)	金具品番	スベークーを介して積み上げる段数(合計高さ：mm)				
300×600	～4	OLK-7	1(300)	2(600)	3(900)	4(1200)	5(1500)
	3～7	OLK-10	1	1	1	1	1
	7～11	OLK-14	1	1	1	2	2
	11～15	OLK-18	1	1	1	2	3
	15～20	OLK-23	1	2	2	3	3

			スベークーを介して積み上げる段数(合計高さ：mm)						
1200×200	～4	OLK-7	1(200)	2(400)	3(600)	4(800)	5(1000)	6(1200)	7(1400)
	3～7	OLK-10	1	1	1	1	2	2	2
	7～11	OLK-14	1	1	1	1	2	3	3
	11～15	OLK-18	1	1	1	2	3	4	4
	15～20	OLK-23	1	2	2	3	4	5	6

タイルサイズ (mm)	張り代 (mm)	金具品番	スベークーを介して積み上げる段数(合計高さ：mm)		
500角	～4	OLK-7	1(500)	2(1000)	3(1500)
	3～7	OLK-10	1	1	1
	7～11	OLK-14	1	1	2
	11～15	OLK-18	1	2	2
	15～20	OLK-23	1	2	3

タイルサイズ (mm)	張り代 (mm)	金具品番	スベークーを介して積み上げる段数(合計高さ：mm)		
800×400	～4	OLK-7	1(400)	2(800)	3(1200)
	3～7	OLK-10	1	1	1
	7～11	OLK-14	1	1	2
	11～15	OLK-18	1	2	3
	15～20	OLK-23	1	2	3

タイルサイズ (mm)	張り代 (mm)	金具品番	スベークーを介して積み上げる段数(合計高さ：mm)		
600角	～4	OLK-7	1(600)	2(1200)	
	3～7	OLK-10	1	1	
	7～11	OLK-14	1	2	
	11～15	OLK-18	1	2	
	15～20	OLK-23	2	3	

タイルサイズ (mm)	張り代 (mm)	金具品番	スベークーを介して積み上げる段数(合計高さ：mm)		
900×450	～4	OLK-7	1(450)	2(900)	3(1350)
	3～7	OLK-10	1	1	2
	7～11	OLK-14	1	2	3
	11～15	OLK-18	1	2	3
	15～20	OLK-23	2	3	4

タイルサイズ (mm)	張り代 (mm)	金具品番	スベークーを介して積み上げる段数(合計高さ：mm)		
800角	～4	OLK-7	1(800)		
	3～7	OLK-10	1		
	7～11	OLK-14	2		
	11～15	OLK-18	2		
	15～20	OLK-23	2		

タイルサイズ (mm)	張り代 (mm)	金具品番	スベークーを介して積み上げる段数(合計高さ：mm)		
1200×600	～4	OLK-7	1(600)	2(1200)	
	3～7	OLK-10	1	2	
	7～11	OLK-14	2	4	
	11～15	OLK-18	3	5	※1.5mm厚金具推奨
	15～20	OLK-23	4	8	※1.5mm厚金具推奨

【金具個数1個の場合】

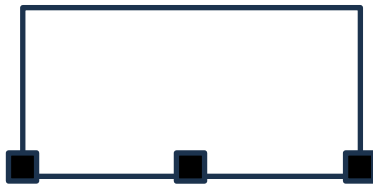
金具の端 1/2 に載せ、隣合うタイルと共有する。 ($1/2+1/2=1$)



【金具個数2個の場合】

(1) 金具の端 1/2 に載せ、隣合うタイルと共有し、かつタイル中央部に1個取り付ける。

($1/2+1+1/2=2$)

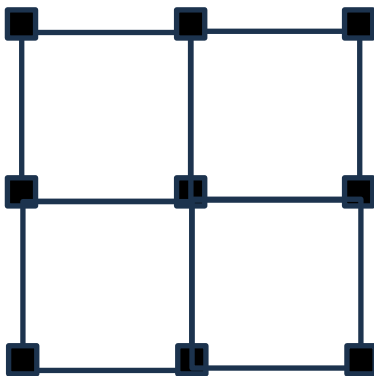


(2) タイルにすべてかかるよう2個取り付ける。



【段数について】

1段=すべてのタイルにL型金具を取り付ける



2段=1段おきにL型金具を取り付ける

